

令和4年度 第1回荒川区子ども・子育て会議

次 第

日 時：令和4年7月6日（水）

14時30分～

会 場：サンパール荒川 小ホール

1 開 会

2 議 事

- (1) 荒川区の保育の状況について
- (2) 幼稚園等の通園状況について
- (3) 放課後児童事業の実施状況について
- (4) 荒川区子ども家庭総合センター（荒川区児童相談所）について
- (5) 荒川区立幼稚園の方向性について

3 閉 会

【資料】

- ・資料1 荒川区の保育の状況について
- ・資料2 幼稚園等の通園状況について
- ・資料3 放課後児童事業の実施状況について
- ・資料4 子ども家庭総合センター相談受付状況
- ・資料5 荒川区立幼稚園の方向性について

荒川区の保育の状況について

ポイント	令和 4 年 4 月 1 日現在における保育定員、待機児童等の状況について報告する。																																																																																	
内 容	<p>1 保育定員・保育利用率の状況</p> <p>< 保育定員の状況（令和 4 年 4 月 1 日現在）></p> <table border="1" data-bbox="284 712 1444 1079"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th rowspan="2">施設数</th> <th colspan="5">保育定員（人）</th> <th rowspan="2">合 計</th> </tr> <tr> <th>0 歳児</th> <th>1 歳児</th> <th>2 歳児</th> <th>3 歳児</th> <th>4・5 歳児</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認可保育園</td> <td>67 園</td> <td>429</td> <td>1,015</td> <td>1,137</td> <td>1,193</td> <td>2,435</td> <td>6,209</td> </tr> <tr> <td>認証保育所</td> <td>9 園</td> <td>60</td> <td>67</td> <td>68</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>201</td> </tr> <tr> <td>家庭福祉員</td> <td>17 人</td> <td colspan="3">52</td> <td colspan="2"></td> <td>52</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>76 園</td> <td colspan="3"></td> <td colspan="2"></td> <td>6,462</td> </tr> </tbody> </table> <p>・新たな私立認可保育園の開設（さくらさくみらい西日暮里）をするなど保育定員の拡大を図り、合計 6,462 人（過去 10 年で + 2,241 人）となった。</p> <p>< 保育施設数の推移（各年 4 月 1 日現在）></p> <table border="1" data-bbox="284 1249 1444 1505"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>令和 2 年</th> <th>令和 3 年</th> <th>令和 4 年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認可保育園</td> <td>62</td> <td>65</td> <td>67</td> </tr> <tr> <td>認証保育所</td> <td>11</td> <td>11</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>73</td> <td>76</td> <td>76</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">【単位：園】</p> <p>< 保育利用率の推移（各年 4 月 1 日現在）></p> <table border="1" data-bbox="284 1635 1444 1944"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和 2 年</th> <th>令和 3 年</th> <th>令和 4 年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>就学前児童人口（人）</td> <td>10,362</td> <td>9,968</td> <td>9,492</td> </tr> <tr> <td>保育定員（人）</td> <td>6,240</td> <td>6,420</td> <td>6,462</td> </tr> <tr> <td>保育利用児童数（人）</td> <td>5,744</td> <td>5,703</td> <td>5,589</td> </tr> <tr> <td>保育利用率</td> <td>55.4%</td> <td>57.2%</td> <td>58.9%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・就学前児童人口は 476 人減ったが、保育利用率は引続き増加傾向にあり、1.7 ポイント上昇した。</p>	区 分	施設数	保育定員（人）					合 計	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4・5 歳児	認可保育園	67 園	429	1,015	1,137	1,193	2,435	6,209	認証保育所	9 園	60	67	68	3	3	201	家庭福祉員	17 人	52					52	合 計	76 園						6,462	区 分	令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年	認可保育園	62	65	67	認証保育所	11	11	9	合 計	73	76	76		令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年	就学前児童人口（人）	10,362	9,968	9,492	保育定員（人）	6,240	6,420	6,462	保育利用児童数（人）	5,744	5,703	5,589	保育利用率	55.4%	57.2%	58.9%
区 分	施設数			保育定員（人）						合 計																																																																								
		0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4・5 歳児																																																																												
認可保育園	67 園	429	1,015	1,137	1,193	2,435	6,209																																																																											
認証保育所	9 園	60	67	68	3	3	201																																																																											
家庭福祉員	17 人	52					52																																																																											
合 計	76 園						6,462																																																																											
区 分	令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年																																																																															
認可保育園	62	65	67																																																																															
認証保育所	11	11	9																																																																															
合 計	73	76	76																																																																															
	令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年																																																																															
就学前児童人口（人）	10,362	9,968	9,492																																																																															
保育定員（人）	6,240	6,420	6,462																																																																															
保育利用児童数（人）	5,744	5,703	5,589																																																																															
保育利用率	55.4%	57.2%	58.9%																																																																															

2 認可保育園入園状況・待機児童数等の推移（各年4月1日現在）

		令和2年	令和3年	令和4年
入園申込者数 (取り下げ者を除く)	A	1,398 (68)	1,367 (31)	1,247 (120)
	B	1,155 (51)	1,126 (29)	1,040 (86)
入園承諾者数	C(A-B)	243 (17)	241 (2)	207 (34)
	認可外対応等			
	認証保育所 a	22	20	17
	家庭福祉員 b	12	11	5
	定期利用 c	5	5	6
	1園希望 d	24	17	10
	地区内(隣接)空枠 e	48	34	26
	求職活動停止中 f	15	3	7
	不承諾希望 g	86	130	132
	書類不備 h	3	0	4
	小計 D (a~h計)	215 (0)	220 (5)	207 (13)
待機児童数	E(C-D)	28 (17)	21 (7)	0 (21)

【単位：人、()内は前年比】

<地域別・年齢別の待機児童数の状況>

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計	増減	(前年計)
南千住	0	0	0	0	0	0	0	0	(0)
荒川	0	0	0	0	0	0	0	0	(0)
町屋	0	0	0	0	0	0	0	2	(2)
東尾久	0	0	0	0	0	0	0	6	(6)
西尾久	0	0	0	0	0	0	0	13	(13)
東日暮里	0	0	0	0	0	0	0	0	(0)
西日暮里	0	0	0	0	0	0	0	0	(0)
計	0	0	0	0	0	0	0	21	(21)
増減	0	21	0	0	0	0	21		
(前年計)	(0)	(21)	(0)	(0)	(0)	(0)	(21)		

・全地域、全年齢で待機児童が解消した。

幼稚園の通園状況について

ポイント	令和 4 年 5 月 1 日現在における区立及び私立幼稚園等の通園状況について、報告する。						
内 容	1 令和 4 年度の通園状況						
	<ul style="list-style-type: none"> ・令和 4 年 5 月の総園児数は 1,487 人、区民園児数は、前年と比べ 239 人減少した。 ・区立幼稚園への通園が全体の 23%、私立幼稚園等への通園が 77%となっている。 ・私立幼稚園等のうち、区内園が 58%、区外園が 42%となっている。 						
	2 幼稚園等の通園状況の推移						
			H30 年	R 元年	R2 年	R3 年	R4 年
	区立幼稚園 (汐入こども園 A 含む)	3 歳児	161	145	112	110	85
		4 歳児	188	167	151	131	118
		5 歳児	178	188	168	158	132
		計	527 (50)	500 (27)	431 (69)	399 (32)	335 (64)
	私立幼稚園等 計 B (C+D)	3 歳児	472	467	451	407	322
		4 歳児	515	454	472	446	396
		5 歳児	496	516	441	474	434
		計	1,483 (64)	1,437 (46)	1,364 (73)	1,327 (37)	1,152 ()175
	私立幼稚園等 C (区内)	3 歳児	267	257	258	243	197
		4 歳児	285	257	252	249	230
		5 歳児	254	284	250	260	246
		計	806 (3)	798 (8)	760 (38)	752 (8)	673 (79)
	私立幼稚園等 D (区外)	3 歳児	205	210	193	164	125
		4 歳児	230	197	220	197	166
		5 歳児	242	232	191	214	188
		計	677 (67)	639 (38)	604 (35)	575 (29)	479 (96)
総計 E (A+B)	3 歳児	633	612	563	517	407	
	4 歳児	703	621	623	577	514	
	5 歳児	674	704	609	632	566	
	計	2,010 (114)	1,937 (73)	1,795 (142)	1,726 (69)	1,487 (239)	
【単位：人、()内は前年比】							

放課後児童事業の実施状況について

ポイント	令和4年4月1日現在における放課後児童事業の実施状況等について、報告する。
内 容	<p>1 放課後児童事業の実施状況</p> <p>(1) 学童クラブ事業 共働き世帯の増加等により、学童クラブの利用申請児童数及び在籍児童数ともに、中長期的に見て増加傾向にあることから、引き続き、供給体制の確保に取り組んでいる。 学童クラブ数：28施設 在籍児童数：1,812名</p> <p>(2) 放課後子ども教室事業（にこにこすくーる） 平成28年度に、全24校での放課後子ども教室の開設が完了し、全校での放課後の安全・安心な居場所が整っている。 にこにこすくーる実施校数：24校 登録児童数：3,160名</p> <p>(3) 放課後子ども総合プラン事業 学童クラブと放課後子ども教室を一体的に整備・運営し、両事業を利用する児童が体験プログラムと一緒に参加できる環境を整え、交流を図る「放課後子ども総合プラン」を推進している。 一体型総合プラン実施小学校：16校 連携型総合プラン実施小学校：7校</p> <p>2 今後の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南千住四丁目学童クラブについては、近隣学童クラブの開設等に伴い在籍児童数が減少したこと等により、三瑞小児童への経過措置が終了する令和4年度末をもって廃止する。 ・ひぐらし小学校における普通教室の不足に対応するため、令和3年度末に廃止となった日暮里ひろば館を改修し、令和6年度からひぐらし小学童クラブ及びにこにこすくーるを当該建物に移転し、引き続き、ひぐらし小放課後子ども総合プランとして実施していく。

学童クラブ在籍児童数

令和4年4月1日現在

		定員	児童数
1	南千住第一	80	77
2	南千住第二	40	34
3	南千住四丁目	60	18
4	南千住六丁目	100	106
5	汐入	110	106
6	二瑞小	70	68
7	汐入小	130	126
8	汐入東小	90	75
9	花の木	60	68
10	峡田	60	57
11	二峡小	70	69
12	三峡小	35	34
13	赤土小	70	67
14	九峡小	60	52
15	四峡小	70	65
16	五峡小	90	88
17	七峡小	70	61
18	大門小	80	80
19	熊野前	50	23
20	尾久小	80	73
21	西尾久	100	52
22	尾久西小	70	68
23	東日暮里	40	25
24	六日小	60	39
25	ひぐらし小	80	80
26	ひぐらし	80	45
27	三日小	90	77
28	二日小	90	79
	合計	2,085	1,812

放課後子ども教室(にこにこすく-る)登録児童数

令和4年4月1日現在

	登録児童数	(参考)学校在籍児童数
1 瑞光小	202	553
2 二瑞小	65	191
3 三瑞小	264	692
4 汐入小	168	728
5 汐入東小	243	628
6 六瑞小	88	89
7 峡田小	120	383
8 二峡小	82	320
9 三峡小	54	142
10 四峡小	152	365
11 五峡小	124	463
12 七峡小	100	310
13 九峡小	113	199
14 尾久小	110	416
15 尾久西小	138	416
16 尾久六小	158	331
17 赤土小	208	552
18 大門小	110	283
19 宮前小	144	303
20 一日小	102	183
21 二日小	127	262
22 三日小	72	427
23 六日小	75	174
24 ひぐらし小	141	544
合計	3,160	8,954

資料4

令和4年7月6日

令和4年度第1回

荒川区子ども・子育て会議

子ども家庭総合センター 相談受付状況

相談内容別児童受付状況

令和3年度 3月分

相談内容	男女別			地域別								計	前年度同月	本年度累計	前年度同月まで累計
	男	女	不明	南千東	南千西	荒川	町屋	東尾久	西尾久	日暮里	不明				
養護 相談	孤 児											0		0	0
	棄 児											0		0	0
	迷 児											0		0	0
	父母に起因											0		10	0
	父に起因	11	5			7	3	2			4	16		227	0
	母に起因	3	7					4	2	1	3	10		223	0
	その他に起因											0		5	0
	その他											0		12	0
虐待合計	14	12	0	0	7	3	6	2	1	7	0	26	477	0	
その他の相談	10	6			1	2	4	2	5	2		16	224	0	
保健相談												0	3	0	
肢体不自由相談												0	2	0	
視聴覚障害相談												0	0	0	
言語発達障害相談												0	1	0	
重症心身障害相談												0	1	0	
知的障害相談	7	2		1	1	2	2		1	2		9	134	0	
発達障害相談												0	4	0	
く犯行為等	2				1	1						2	23	0	
触法行為等相談	1	1			1	1						2	21	0	
不登校相談	1	1		1						1		2	26	0	
性格行動相談	6	2				3	1	2		1	1	8	79	0	
しつけ相談	1	2		2		1						3	63	0	
適性相談												0	0	0	
その他の相談	7	2	3	1		1		1		3	6	12	128	0	
合計	49	28	3	5	11	14	13	7	7	16	7	80	1,186	0	

子ども家庭総合センター2月相談受付状況等

種別	区分	当月件数	R3累計件数
受理件数		80	1,186
あらかわキッズ・マザーズコール24相談受付状況		96	1,141

里親に関する状況

里親種別	養育家庭	専門養育家庭	親族里親	養子縁組里親
里親登録数	8	1	0	5

子ども家庭総合センター 相談受付状況

令和3年度 3月分

経路別児童受付状況

経路		当月	前年度同月	本年度累計	前年度同月までの累計
都道府県	児童相談所	4		22	
	福祉事務所	0		0	
	保健センター	0		0	
	その他	0		0	
区市町村	福祉事務所	3		25	
	児童委員	0		0	
	保健センター	0		0	
	その他	0		71	
児童福祉施設等	保育所	4		11	
	児童福祉施設	1		8	
	指定発達支援医療機関	0		0	
警察等		15		257	
認定こども園		0		0	
児童家庭支援センター		0		0	
家庭裁判所		1		6	
保健所		2		72	
医療機関		0		11	
学校等	幼稚園	2		5	
	学校	4		64	
	教育委員会等	0		6	
児童委員（通告）		0		0	
里親		0		0	
家族・親戚		26		379	
近隣知人		4		107	
児童本人		0		9	
その他		14		133	
合 計		80	0	1186	0

資料 5

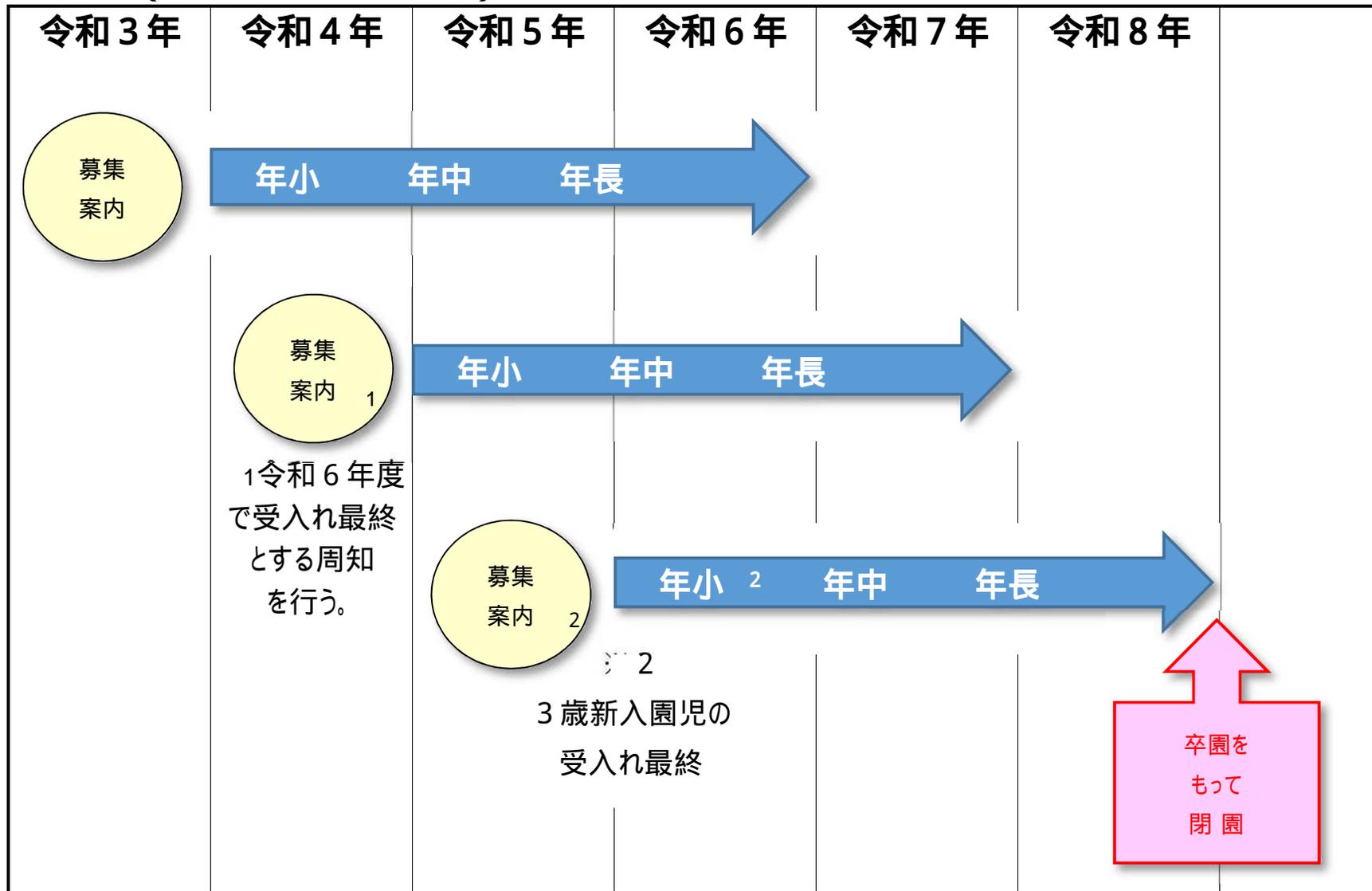
令和 4 年 7 月 6 日
令和 4 年度 第 1 回
荒川区子ども・子育て会議

荒川区立幼稚園の方向性について

ポイント	荒川区立幼稚園の方向性について、報告する。																																																							
内 容	<p>1 区立幼稚園の現状と課題</p> <p>(1) 区立幼稚園は、昭和 24 年に私立幼稚園を補完する形で開設し、平成 20 年度からは 3 歳児保育を全園で開始するなど、幼児教育の充実を図ってきた。</p> <p>(2) 共働きの子育て世帯の増加など社会環境の変化により、保育需要が高まっていることに加え、幼児教育・保育の無償化や少子化に伴う学齢数の減少により、区立幼稚園の入園者数は減少している。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R 元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: left;">学 齢 数</td> <td>5,010</td> <td>5,018</td> <td>5,047</td> <td>5,106</td> <td>5,200</td> <td>5,196</td> <td>5,304</td> <td>5,259</td> <td>5,075</td> <td>4,802</td> </tr> <tr> <td style="text-align: left;">区 立 幼</td> <td>723</td> <td>703</td> <td>679</td> <td>638</td> <td>577</td> <td>527</td> <td>500</td> <td>431</td> <td>399</td> <td>335</td> </tr> <tr> <td style="text-align: left;">私 立 幼 (区 内 園)</td> <td>808 (695)</td> <td>790 (672)</td> <td>817 (694)</td> <td>820 (698)</td> <td>1,065 (803)</td> <td>856 (806)</td> <td>1,024 (798)</td> <td>934 (760)</td> <td>916 (752)</td> <td>799 (673)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: left;">保 育 園</td> <td>2,238 (2,207)</td> <td>2,381 (2,348)</td> <td>2,528 (2,513)</td> <td>2,690 (2,652)</td> <td>2,824 (2,793)</td> <td>2,903 (2,879)</td> <td>3,146 (3,125)</td> <td>3,228 (3,211)</td> <td>3,192 (3,176)</td> <td>3,130 (3,101)</td> </tr> </tbody> </table> <p>3 歳から 5 歳の総園児人数、私立幼・保育園の () 内は区民園児数。各年度 5 月 1 日現在の園児数。</p> <p>(3) 一方で、特別な支援を必要とする園児は、令和 4 年度 4 月現在 99 人と増加傾向にある。</p> <p>(4) 保護者からは、長時間の預かり教育や給食提供のニーズが高い状況にある。</p> <p>(5) 令和 3 年度募集から、3 歳新入園児について申込みが 7 人以下の場合には、学級編制を行わない基準を明確化し、2 年続いた場合には閉園を検討することとしている。</p> <p>(6) 汐入こども園については、幼稚園部分の短・中時間保育よりも、保育園部分の長時間保育の需要が高い状況にある。</p> <p>2 区立幼稚園に求められる機能</p> <p>(1) 特別な支援を必要とする園児の人数は、増加傾向にあり、就学前教育を行う場として受入れ先を確保しておく必要がある。</p>		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R 元	R2	R3	R4	学 齢 数	5,010	5,018	5,047	5,106	5,200	5,196	5,304	5,259	5,075	4,802	区 立 幼	723	703	679	638	577	527	500	431	399	335	私 立 幼 (区 内 園)	808 (695)	790 (672)	817 (694)	820 (698)	1,065 (803)	856 (806)	1,024 (798)	934 (760)	916 (752)	799 (673)	保 育 園	2,238 (2,207)	2,381 (2,348)	2,528 (2,513)	2,690 (2,652)	2,824 (2,793)	2,903 (2,879)	3,146 (3,125)	3,228 (3,211)	3,192 (3,176)	3,130 (3,101)
	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R 元	R2	R3	R4																																														
学 齢 数	5,010	5,018	5,047	5,106	5,200	5,196	5,304	5,259	5,075	4,802																																														
区 立 幼	723	703	679	638	577	527	500	431	399	335																																														
私 立 幼 (区 内 園)	808 (695)	790 (672)	817 (694)	820 (698)	1,065 (803)	856 (806)	1,024 (798)	934 (760)	916 (752)	799 (673)																																														
保 育 園	2,238 (2,207)	2,381 (2,348)	2,528 (2,513)	2,690 (2,652)	2,824 (2,793)	2,903 (2,879)	3,146 (3,125)	3,228 (3,211)	3,192 (3,176)	3,130 (3,101)																																														

	<p>(2) 就学前教育と小学校教育の円滑な接続ができるよう、小学校との一層の連携強化が求められる。</p> <p>(3) 日暮里幼稚園でモデル実施している預かり教育実施園の拡大や給食の提供等、保護者のニーズを踏まえたサービス面の充実が求められる。</p> <p>(4) 区立・私立の幼稚園が相俟って荒川区の幼児教育の一層の質の向上と充実を図ることが求められる。</p> <p>3 区立幼稚園の方向性</p> <p>(1) 質の高い幼児教育の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特別な支援を必要とする子どもたちの就学前教育の場として、よりよい支援の方法について検討と実践を重ねながら、他の未就学施設に対してのモデル的役割を果たす。 ・ 特色のある教育を進めるとともに、就学前教育から小学校教育へスムーズに移行できるよう、小学校との交流教育や研究会等を通じて実践例を蓄積していく。 <p>(2) 地域バランスに配慮した再配置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 区立幼稚園需要の変化に対応しながら、荒川区の幼児教育の向上を図るため、私立幼稚園の配置状況を考慮しつつ、瑞光、峡田、尾久、日暮里の小学校学区域の地区と合わせ、地区ごとに区立幼稚園を1園とし、計4園（南千住第二、花の木、尾久第二、日暮里）を配置する。 ・ また、汐入こども園については、廃止とし、施設の活用について検討する。 <p>(3) 預かり教育の拡充</p> <p>再配置と同時に、日暮里幼稚園においてモデル実施している預かり教育を全4園で実施する。預かり教育の実施に向け人員を充実させるため、再配置に合わせ幼稚園教諭の異動を実施する。</p> <p>(4) 給食提供等の検討</p> <p>給食提供等の実施については、保護者ニーズや私立幼稚園に与える影響等に配慮しつつ、実施に向けて検討する。</p> <p>(5) 私立幼稚園との連携</p> <p>区立、私立が連携して、取り組み内容等を園長会、研究発表会等で公表するなど、情報を共有しやすい環境を整え、荒川区の幼児教育全体の一層の質の向上を図る。</p> <p>4 実施時期等について</p> <p>(1) 再配置に伴い、閉園となる4園（南千住第三、町屋、尾久、東日暮里）については、令和6年度3歳新入園児の受け入れを最終とし、令和8年度末をもって閉園とする。また、令和4年に行う園児募集時（令和5年度入園児）から募集要項等に再配置に関する事項を明記し、周知を行う。</p> <p>(2) 3歳新入園児募集における学級編制基準（応募者が7人以下の場合、学級編制を行わず募集を中止とする）は、引き続き、適用する。</p> <p>(3) 4園体制となる令和9年度から、日暮里幼稚園においてモデル実施している預かり教育を全園で実施する。</p>
<p>今後の予定</p>	<p>令和 4年 7月初旬 パブリックコメント実施</p> <p>8月31日 文教・子育て支援委員会（最終案の報告）</p> <p>10月初旬 募集要項配付</p> <p>11月初旬 入園申込</p>

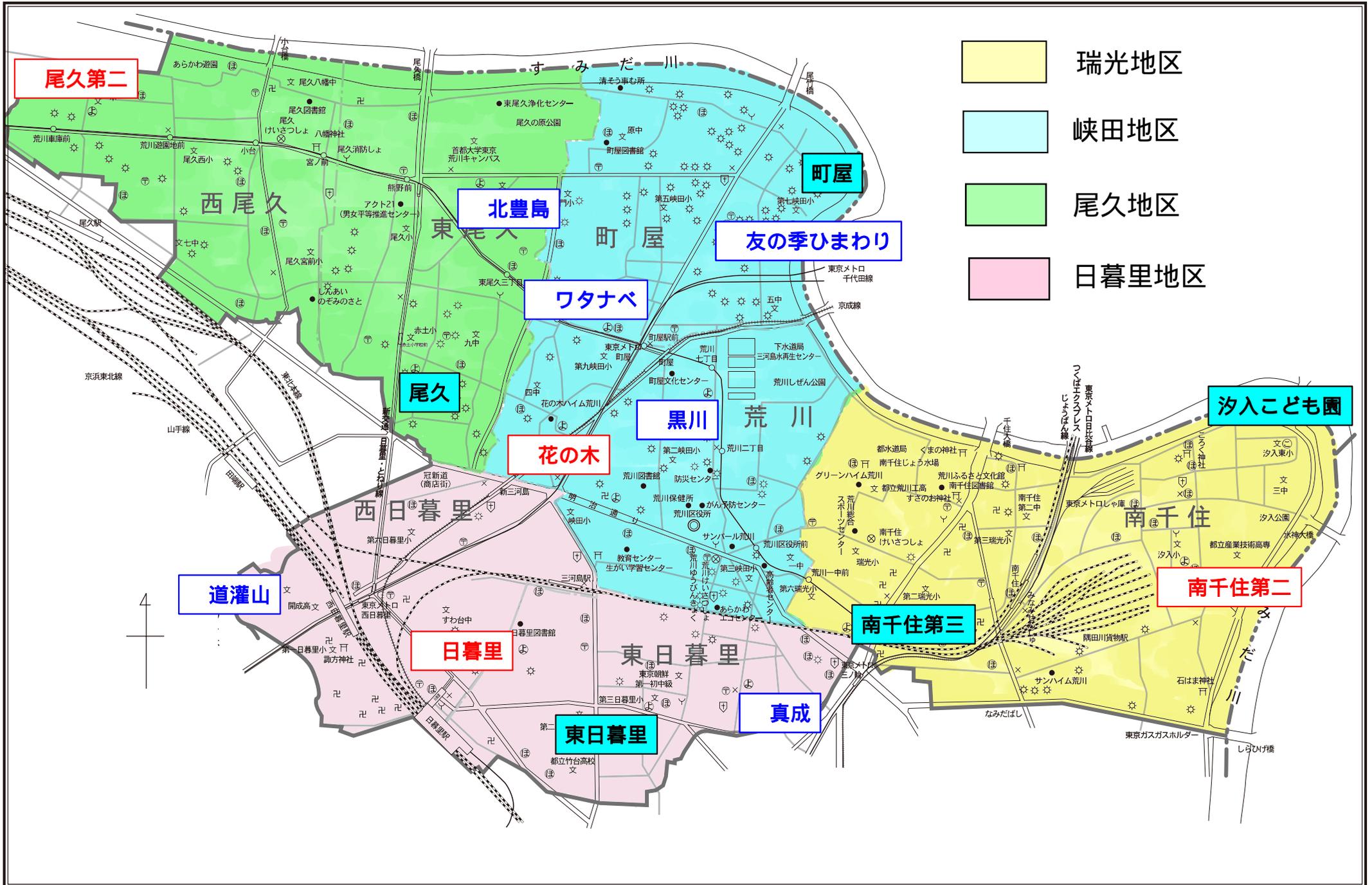
【実施時期（閉園となる4園）】



荒川区内幼稚園

私立6園

区立4園



荒川区立幼稚園の方向性について（素案）

令和4年6月

荒川区教育委員会事務局

はじめに

近年では、少子化や核家族化の進行に加え、共働きの子育て世帯の増加、就労環境の多様化等により、就学前の子どもたちを取り巻く環境は大きく変化しています。

しかし、そうした中であっても幼児期は、心情や意欲、態度、基本的な生活習慣など、生涯にわたる人間形成の基礎が培われる極めて重要な時期であり、幼児期における教育は、子どもたちの今後の成長に大きな影響を与えます。

荒川区では、未来社会の守護者である子どもたちが質の高い幼児教育を受けられるよう、時代背景や区民の要望に応じた環境整備に取り組んできました。子どもたちを取り巻く環境の変化と幼児教育の重要性を改めて見つめ、今回、これまで検討してきた区立幼稚園の今後の方向性について、その内容の素案を取りまとめたので、ここに報告いたします。

1 荒川区の区立幼稚園等の現状と課題

学校教育法第一条に「学校」と定められている幼稚園は、同二十二条で「義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とする。」とされている。区立幼稚園、私立幼稚園に拘わらず、その目的を果たすために幼稚園教育要領に則った教育を実施しており、区立幼稚園と私立幼稚園が両輪となって荒川区の幼稚園教育を担ってきた。

これまでの区立幼稚園等の経緯と今後の方向性について検討する際の前提となる現状と課題は以下のとおりである。

(1) 区立幼稚園等の経緯

区立幼稚園は、戦後の人口増加による幼稚園需要の拡大に伴い、荒川区の幼児教育の先駆的な役割を果たしてきた私立幼稚園を補完する形で、昭和24年に尾久幼稚園及び日暮里幼稚園が設立され、昭和52年に10園目となる花の木幼稚園が設立された。その後、園児数の減少に伴い、平成11年度をもって峡田幼稚園と南千住幼稚園が閉園となり、現在は8園となっている。

教育環境の充実策としては、平成20年度から3歳児保育の全園実施を開始したほか、令和元年度からは日暮里幼稚園で預かり教育をモデル実施している。また、町屋幼稚園と第七峡田小学校をモデル園・校に指定して就学前教育と小学校教育の連携事業を実施するなど、区立幼稚園の教育内容の向上に努めてきた。

区立汐入こども園は、汐入地区における幼稚園及び保育園需要に応えるため平成20年度に設立され、平成22年度に現在の場所（汐入東小学校1階部分）に移転した。0歳から就学前までの継続的かつ一貫した教育・保育を行う施設であり、地域における子育て家庭の支援を行うための事業（一時保育・子育て交流サロン）も実施している。

(2) 園児数の状況

区立幼稚園は令和4年5月現在、各園とも3歳児・4歳児・5歳児各35名の105名の定員で園児を受け入れている（南千住第二幼稚園の3歳児は30名、園定員100名）。入園率（定員に対する園児数の割合）は3～5歳児全体で約36%となっており、これは入園率が約68%であった平成25年度以降、減少傾向にある。減少の原因としては、共働きの子育て世帯の増加など社会環境の変化等に伴う保育需要の高まりや、幼児教育・保育の無償化により、私立幼稚園と比較した際の保育料等の費用面における優位性が区立幼稚園になくなったこと等が考えられる。なお、汐入こども園についても、幼稚園部分の短・中時間保育の園児数が減少傾向にある。

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4
学齢数	5,010	5,018	5,047	5,106	5,200	5,196	5,304	5,259	5,075	4,802
区立幼	723	703	679	638	577	527	500	431	399	335
私立幼 (区内園)	808 (695)	790 (672)	817 (694)	820 (698)	1,065 (803)	856 (806)	1,024 (798)	934 (760)	916 (752)	799 (673)
保育園	2,238 (2,207)	2,381 (2,348)	2,528 (2,513)	2,690 (2,652)	2,824 (2,793)	2,903 (2,879)	3,146 (3,125)	3,228 (3,211)	3,192 (3,176)	3,130 (3,101)

3歳から5歳の総園児人数、私立幼・保育園の()内は区民園児数。

各年度5月1日現在の園児数。

(3) 特別な支援を必要とする幼児への対応について

都内には特別支援学校の幼児部が設置されておらず、区立幼稚園が特別な支援を必要とする幼児を受け入れる場合には、幼児教育補助員を配置し、集団教育を受けられる体制を整えている。

前述のとおり、区立幼稚園全体の園児数が減少している一方で、特別な支援を必要とする園児数は増加傾向にある。

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
対象園児数	30	36	50	43	99	88	102	96	101	99
補助員配置数	23	24	31	27	52	52	58	56	60	68

各年5月1日時点の人数

(4)保護者の方々からのご意見について

令和4年現在、区立幼稚園（日暮里幼稚園を除く）の1日の教育時間については、幼児の幼稚園における教育の時間の長さの妥当性や家庭等における生活の重要性等を総合的に考慮して9時～14時までとしている。しかしながら、現状の教育時間では、共働き世帯にとって就園施設の選択肢として区立幼稚園を選びにくい状況になっており、入園申込時に行う保護者対象アンケート調査の中では、預かり教育の各園展開により子どもの預かり時間をもっと長くしてほしいという意見が毎年挙げられている。

また、区立幼稚園の昼食はお弁当持参となっており、食を通じた親子のコミュニケーション機会づくりや、食に対する知識・意欲の向上等を図っているが、毎日のお弁当作成を負担と感じている保護者もいる。

2 区立幼稚園に求められる機能

- (1) 特別な支援を必要とする園児の人数は、増加傾向にあり、就学前教育を行う場として受入れ先を確保しておく必要がある。
- (2) 就学前教育と小学校教育の円滑な接続ができるよう、小学校との一層の連携強化が求められる。
- (3) 日暮里幼稚園でモデル実施している預かり教育実施園の拡大や給食提供等、保護者のニーズを踏まえたサービス面の充実が求められる。
- (4) 区立・私立の幼稚園が相俟って荒川区の幼児教育の一層の質の向上と充実を図ることが求められる。

3 区立幼稚園の方向性

(1) 質の高い幼児教育の実現

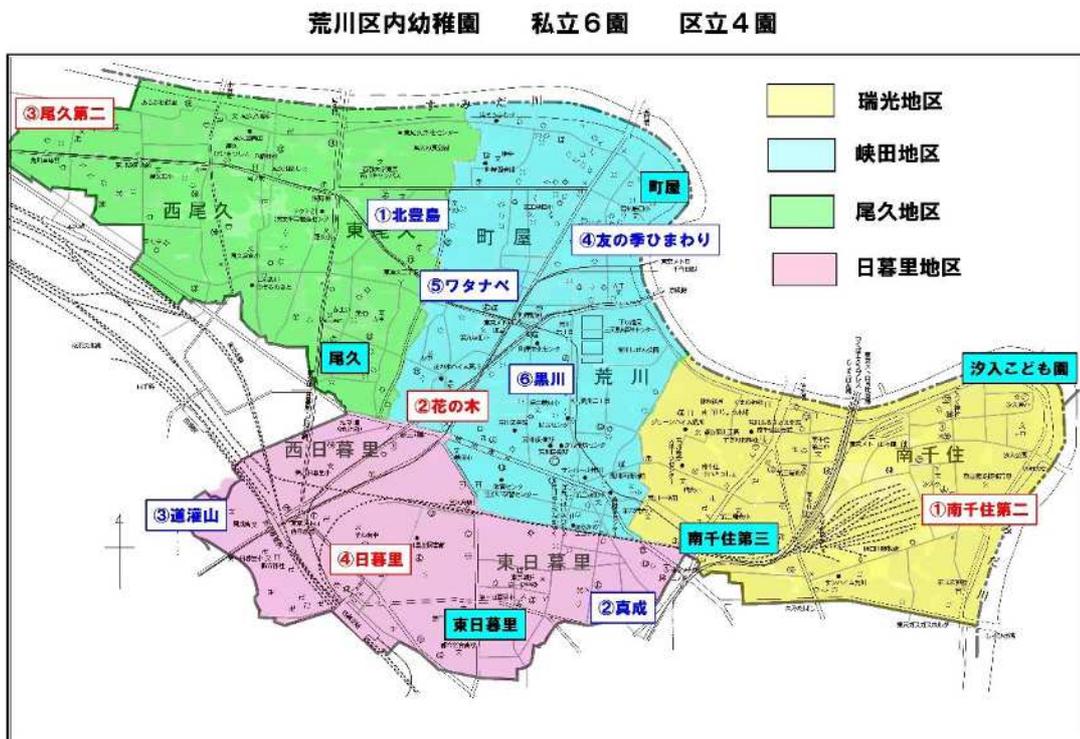
特別な支援を必要とする幼児の就学前教育の場として、引き続き幼児教育補助員を適切に配置するとともに、より良い支援の方法について検討と実践を重ねながら、他の未就学施設に対してのモデル的役割を果たす。

また、就学前教育から小学校教育へスムーズに移行できるよう、小学校との交流教育や研究会等を通じて実践例を蓄積していく。

(2) 地域バランスに配慮した再配置

区立幼稚園需要の変化に対応しながら、荒川区の幼児教育の向上を図るため、私立幼稚園の配置状況を考慮しつつ、瑞光、峡田、尾久、日暮里の小学校学区の地区と合わせ、地区ごとに区立幼稚園を1園とし、計4園（南千住第二、花の木、尾久第二、日暮里）を配置する（再配置後の荒川区立幼稚園配置図については下記参照）。

また、汐入こども園（短・中時間保育）は、この再配置と合わせ、廃止することとする。



(3)預かり教育の拡充

再配置と同時に、日暮里幼稚園においてモデル実施している預かり教育を全4園で実施する。預かり教育の実施に向け人員を充実させるため、再配置に合わせ職員の異動を実施する。

(4)給食提供等の検討

給食提供等の実施については、保護者ニーズや私立幼稚園に与える影響等に配慮しつつ、実施に向けて検討する。

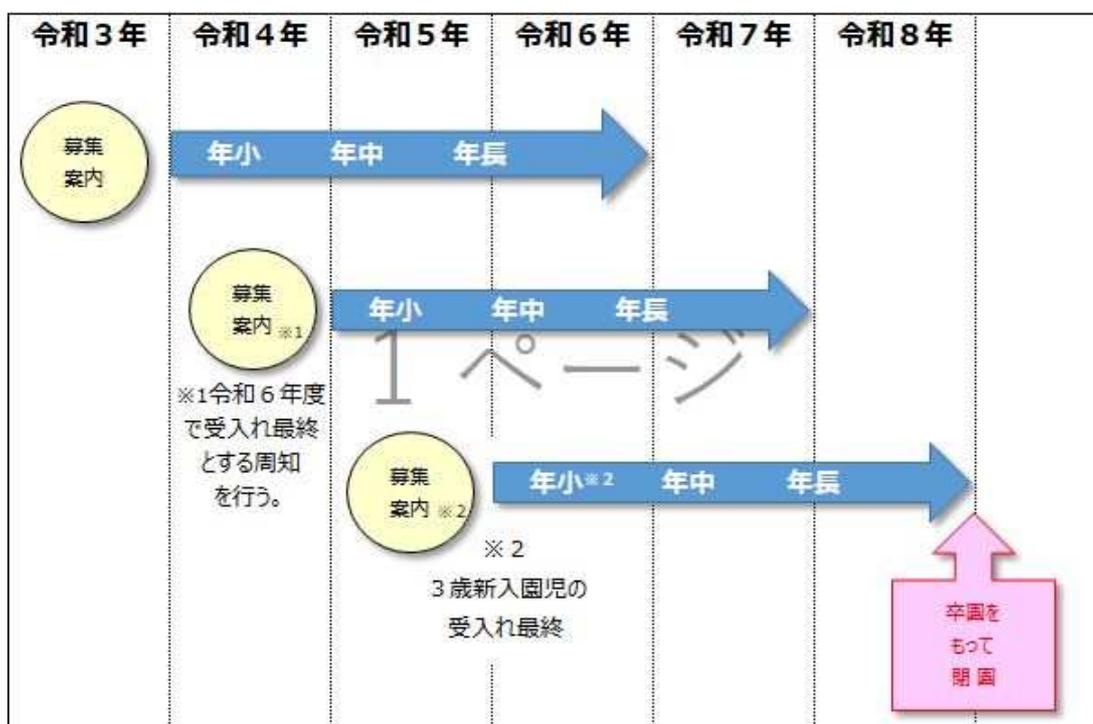
(5)私立幼稚園との連携

区立、私立が連携して、取り組み内容等を園長会、研究発表会等で公表するなど、情報を共有しやすい環境を整え、荒川区の幼児教育全体の一層の質の向上を図る。

4 実施時期等について

(1)再配置実施のスケジュールについて

再配置に伴い、閉園となる4園（南千住第三、町屋、尾久、東日暮里）については、令和6年度3歳新入園児の受入れを最終とし、令和8年度末をもって閉園とする。また、汐入こども園（短・中時間保育）についても同様のスケジュールで廃止する。なお、令和4年度に行う園児募集時（令和5年度入園児）から募集要項等に再配置に関する事項を明記し、周知を行う。



(2)学級編制基準の取り扱いについて

園児数の減少に伴う区立幼稚園の小規模化の現状を見直し、効果的な教育活動及び適正な幼稚園運営を行うために、下記の学級編制基準は、引き続き、適用する。

学級編制を行う基準（令和2年9月15日付文教・子育て支援委員会）

- (1) 3歳児の新入園児については、最小園児数は8人とし、7人以下の場合は学級編制を行わず、募集を中止する。
- (2) 学級編制を2年続けて行わなかった場合は、廃園を検討する。

(3)預かり教育の全園実施について

4園体制となる令和9年度から、現在日暮里幼稚園においてモデル実施している預かり教育を全園で実施する。